# 日記・古記録の世界

**倉本一宏編** ▶A５判・750頁／定価:本体 12,500円(税別) ISBN978-4-7842-1794-6 2015年３月刊行

日本の日記・古記録を題材として、日本史学、日本文学など関連分野の第一線の研究者がそれぞれの視点からその本質に迫った論文集。日記とは何か、古記録とは何か、それらを記録することの意味、記主や伝来をめぐる諸問題、さらには古代・中世における使われ方など、単に日記・古記録を利用するだけにとどまらない意欲作35論考を収録した。国際日本文化研究センターでの3年間にわたる共同研究「日記の総合的研究」の成果。

○○内容目次○○


**第Ⅰ部　日記・古記録の本質**

「日記」および「日記文学」概念史大概　鈴木貞美
「日記」という文献—その実態の多様性　近藤好和
茶会記の成立 —日記・古記録学の視点から　松薗斉
日記と日記文学　カレル・フィアラ
日記と僧伝の間—『空華日用工夫略集』の周辺　榎本渉

**第Ⅱ部　日記・古記録を記すということ**

具注暦と日記　山下克明
古記録の裏書について —特に『御堂関白記』自筆本について　倉本一宏
日記から歴史物語へ—政変をめぐって　中村康夫
記す祭と記さない祭 —貴族の邸内祭祀に見る古記録の記載基準　上野勝之
藤原行成が『権記』に記した秘事 —なぜ日記を書き残すのか　板倉則衣
近世琉球における日記の作法 —那覇役人福地家の日記をとおして　下郡剛

**第Ⅲ部　日記・古記録の記主をめぐって**

宇多天皇の文体　佐藤全敏
日記における記主の官職名表記についての検討　小倉慈司
日記の亡佚に関する一考察 —記主と権力の緊張関係について　今谷明
記事の筆録態度にみる記主の意識 —記事を書くこと、書かないこと　尾上陽介
日記を書く天皇　西村さとみ
一人称形式かな日記の成立をめぐって　久富木原玲
『台記』に見る藤原頼長のセクシュアリティの再検討　三橋順子

**第Ⅳ部　日記・古記録の伝来**

かへりきにける阿倍仲麻呂—『土左日記』異文と『新唐書』　荒木浩
『御堂関白記』古写本の書写態度　名和修
『小右記』と『左経記』の記載方法と保存形態 —古記録文化の確立　三橋正
公家史料の申沙汰記—日記と古文書を結ぶ史料群　井原今朝男
真言門跡寺院における日記・記録・文書 —勧修寺大経蔵からみえるもの　上島享
『西宮記』勘物の諸本間の配列について —六月・七月勘物の書写方法から　堀井佳代子
殿下乗合事件—「物語」に秘めた真実と「日記」に潜む誤解　曽我良成

**第Ⅴ部　日記・古記録の使われ方**

渡海日記と文書の引載—古記録学的分析の試みとして　森公章
平安貴族による日記利用の諸形態　加藤友康
藤原行成『権記』と『新撰年中行事』 —引用された式と日記を手がかりに　古瀬奈津子
『明月記』の写本学研究—貴族日記と有職故実書　藤本孝一

**第Ⅵ部　日記・古記録を素材として**

国司苛政上訴寸考—日記を用いた処理手続きの復元　磐下徹
『宮中御懺法講絵巻』(三千院所蔵) の再検討 —記録性の視点から　末松剛
日記逸文から読み取れること —『宇多天皇御記』の壺切由来記事の考察から　古藤真平
一条天皇と祥瑞　有富純也
検非違使官人の日記 —『清獅眼抄』に見る焼亡奏と「三町」　中町美香子
ペリーがくるまでは、やはり鎖国である。 —オランダ商館日記から　井上章一



**思文閣出版**　〒605-0089 京都市東山区元町355　tel.075-751-1781 fax.075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp　E-mail:pub@shibunkaku.co.jp


| 注文票 | 発行:思文閣出版 | | (京都　取引コード 3402) |
|---|---|---|---|
| 冊数 | 冊 | 日記・古記録の世界 | 本体12,500円(税別) ISBN978-4-7842-1794-6 |
| お名前 | | tel<br>e-mail | 本書ＨＰのＱＲコード |
| ご住所 | 〒 | | |
| 送本方法 | □書店経由（このちらしを書店にお渡し下さい）<br>□代　　引(書籍代＋送料を現品と引き替えにお支払い) | | 書店番線印 |

## 御堂関白記全註釈［全16冊］
山中裕編

藤原道長の日記「御堂関白記」は平安時代を代表する一級史料。本全注釈は永年にわたる講読会（東京・京都）と夏の集中講座による成果を集成したもので、原文・読み下しと詳細な注によって構成されている。「寛弘６年」については、初版刊行時の特殊事情を考慮して、編者のもとで註釈部分の再検討を行い、大幅な改訂を加えて改訂版として刊行する。

【第1期】
寛弘元年、寛弘2年、寛弘6年【改訂版】、長和元年、長和2年、寛仁元年、寛仁2年上、寛仁2年下～治安元年

【第2期】
長和4年、寛弘3年、寛弘7年、寛弘4年、寛弘8年、寛弘5年、長和5年、御堂御記抄／長徳4年～長保2年

▶A5判・平均250頁／揃本体107,000円（税別）

## ※古記録と日記［全2冊］
山中裕編

従来の研究は古記録を歴史学、「かな」の日記を国文学の分野で扱ってきたが、本書においては日記という大きな見地から平安朝の古記録と日記文学の本質を明らかにすることを主眼としている。挿入図版60余点。

上巻▶A5判・252頁／本体2,900円（税別）　ISBN4-7842-0752-X
下巻▶A5判・266頁／本体2,900円（税別）　ISBN4-7842-0753-8

## 『親信卿記』の研究
佐藤宗諄先生退官記念論文集刊行会編

平親信（946-1017）の日記『親信卿記』は、蔵人の年中行事に関わる一級史料である。本書は、四方拝・供立春水など80項目余の記事を抽出・分離し、他本との校訂や内容の研究にとりくんだ一書。関係補論６篇のほか古代史の個別論考４篇も収録。

▶A5判・598頁／本体9,800円（税別）　ISBN4-7842-1252-3

## 平安時代陰陽道史研究
山下克明著

平安時代を中心に、仏教・神祇信仰と並ぶ宗教としての陰陽道のあり方、陰陽師たちの天文観測技術や呪術・祭祀など活動の実態とその浸透、彼らの信仰などをさまざまな角度から明らかにする。また、中国から伝来し陰陽道の背景となった諸典籍、その展開のなかで陰陽師たちが著し伝えた主な関連史料を、解説を付しながら幅広く紹介。

▶A5判・460頁／本体8,500円（税別）　ISBN978-4-7842-1780-9

## 平安貴族社会の秩序と昇進
佐古愛己著

律令国家体制が維持されていた平安初期から、平安末・鎌倉初期までを射程として、貴族社会の構成と編成原理を解明する大著。叙位制度の変化に連動する律令官司制の変質、中世国家機構の形成過程との有機的な関連を追究し、律令官人制から平安貴族社会、中世公家社会の成立過程を明らかにし、日本の古代から中世への移行の特質を探る。

▶A5判・572頁／本体7,800円（税別）　ISBN978-4-7842-1602-4

## 源氏物語の史的研究
山中裕著　　思文閣史学叢書

王朝文化・有職故実研究の第一人者が源氏物語を史的に読み解く。紫式部の生涯と後宮／源氏物語と時代背景／源氏物語の内容と時代性／源氏物語の準拠と史実、の4篇と付篇からなり、特に第3・4篇は、摂関制・年中行事・準拠と史実などの面から論じた、著者の面目躍如たる一書。

▶A5判・470頁／本体9,200円（税別）　ISBN4-7842-0941-7

## 日本の心と源氏物語
岡野弘彦編　　シリーズ古典再生②

古事記や万葉集にある、神の意志を普遍化するという女性特有の聖なる力が、『源氏物語』の男女の恋にも続いていて、日本人のロマン性を持ったあこがれの思い、心の基層となる。編者の師である折口信夫が体系化できずに終わった「いろごのみの道徳」論に向きあい、『源氏物語』に流れる日本の心を読み解く。

▶46判・246頁／本体1,800円（税別）　ISBN978-4-7842-1412-9

## ※禁裏・公家文庫研究［既刊4輯］
田島公編

京都御所の東北隅に位置する東山御文庫には、近世の天皇家の文庫すなわち禁裏文庫を継承した古典籍や古文書が約六万部収蔵されていると言われているが、謄写本である東京大学史料編纂所所蔵『東山御文庫記録』や、宮内庁書陵部により撮影され『書陵部紀要』の彙報に掲載される東山御文庫本マイクロフィルムによって、その一部が紹介されているにすぎず、古典籍研究に充分生かされているとはいえない。

本書は、勅封のため全容が不明であった東山御文庫本など近世の禁裏文庫収蔵の写本や、交流がある公家の文庫収蔵本に関する論考・データベース・史料紹介を収載し、近世の禁裏文庫本を古典籍研究に役立てようとするものである。

**【2015年3月「第五輯」刊行予定】**

▶B5判・平均400頁／揃本体40,600円（税別）

## ※平安時代の古記録と貴族文化
山中裕著　　思文閣史学叢書

古記録・儀式書・かなの日記・歴史物語等の根本史料を基に、摂関政治の本質および年中行事を主とする平安貴族文化の実態を説かんとするものである。第1篇では藤原師輔と源高明をとりあげ、第2篇では御堂関白記を中心に道長の政治を論じ、また史実と歴史物語の関係を検討し、第3・4篇で、平安時代の有職故実を解明する。

▶A5判・510頁／本体8,800円（税別）　ISBN4-7842-0857-7

## 栄花物語・大鏡の研究
山中裕著

従来『栄花物語』はとくに国文学の分野でとりあげられ、歴史学の方面からの研究は少ない状態である。本書は『栄花物語』に内包される歴史書としての特徴を考究し、かつ『大鏡』の歴史的意義についても論究。従来からの歴史物語という分野に収まりきれない可能性を提示する。

▶A5判・404頁／本体7,200円（税別）　ISBN978-4-7842-1640-6

## 増補 陰陽道の神々
斎藤英喜著　　佛教大学鷹陵文化叢書17

コロンビア大学での発表をもとにした論考“牛頭天王の変貌と「いざなぎ流」”を収録して増補再版。疫神や式神、泰山府君、牛頭天王、八王子、金神、盤牛王、そして式王子、呪詛神たち……。彼らは近代社会が封印し、消去した「陰陽道」の神々である。本書は、知られざる陰陽道の神々の来歴と素顔を平易に説く。

▶46判・356頁／本体2,300円（税別）　ISBN978-4-7842-1644-4

## 公家と武家［全4冊］
村井康彦・笠谷和比古編

国際日本文化研究センターで行われた公家（貴族）と武家に焦点を合わせた共同研究の成果。武士層が成長した地域と、文官支配が優越した地域との差異に着目。前近代社会における支配エリートであったそれらの身分や職能のもつ意味、その秩序の形式、社会的役割といったものを多角的に検討する。

▶A5判・平均490頁／揃本体33,500円（税別）

## 一千年目の源氏物語
伊井春樹編　　シリーズ古典再生①

たんなる古典復興ではなく、それらの作品を現代の眼でもう一度見直して再生することを目指して開催された国文学研究資料館主催シンポジウム「一千年目の源氏物語」、思文閣出版・京都新聞社主催シンポジウム「私の源氏物語」をもとにし、斯界の識者による「源氏物語論」を集約。次の世代へとその価値を継承する。

▶46判・252頁／本体1,600円（税別）　ISBN978-4-7842-1408-2

## 歴史のなかの源氏物語
山中裕編　　シリーズ古典再生③

摂関時代の文化のあり方、女流日記と女房文学の本質、とくに藤原道長の存在と紫式部との関係に重点を置いた編者渾身の『源氏物語』論を第一部とし、第二部以降では、准拠論、節会の本質と意義、年中行事・通過儀礼の宴と儀式の本質など、一五人の気鋭が、歴史のなかの源氏物語について最新の研究成果を展開する。

▶46判・310頁／本体2,200円（税別）　ISBN978-4-7842-1423-5

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年４回無料でお送りしています。
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。